

平成30年度 学校評価報告

兵庫県立姫路商業高等学校

[内部評価] 対象：各部・学年

A：よくできた B：できた C：あまりできなかった D：できなかった

	重点目標	成果	評価	課題	改善策等
総務	(1) 新たな業務内容である環境整備・美化に対して取り組み、より良い学習環境の整理に努める。	前保健部より業務を引き継ぐとともに、改装された新トイレの清掃方法に取り組み、清掃道具を調達、配置した。	B	引き継ぎに不備な点もあり、ワックスがけが年度末に集中した。 清掃監督者の適正配置。	環境整備・美化に関する年間計画を見直し検討し、しっかり立案する。 職員数から監督場所を再度検討する。
	(2) 防災教育の推進を図り、緊急時にも適切な対応ができる態度や能力の育成に取り組む。	7月に火災発生、12月地震発生を想定し避難訓練を実施した。 12月の訓練実施後に、2名の職員より生徒に対して東北被災地の訪問報告を行った。	A	実施後の職員アンケートにより確認された避難経路、放送設備等の不備な点の改善。 より実践的な訓練の実施。	事務室等と相談しながら修理改修していく。 防災危機管理マニュアルの再検討を行う。 防災に関する研修、資料により、より実践的な訓練計画防災教育を検討する。
	(3) PTA、後援会、同窓会等関係機関との連携協力をより一層密にする。	PTA、後援会の校内担当者と連絡を密に取った	A	同窓会との連絡、連携の整理が必要である。	連絡、連携の整理、確認を行う。
教務	(1) 自ら学び、自ら考える力を育成するため、各教科内研修を推進し、授業改善を勧める。 研究授業を行い授業改善・自己研鑽に努める。	6月と11月に公開授業週間を設定し、各教科での授業の研修を促し、自己研鑽に努めるように促した。 積極的な授業改善を目標に、今年度は教科国語・英語・商業・社会で研究授業を行うことにした。 教員歴1～4の先生が積極的に研究授業を行うことができた。	A	公開授業週間に参加する保護者が少なかった。	公開授業は案内・メール以外に保護者への周知徹底を積極的に行う。 総会などの機会に積極的にもアピールしていきたい。 研究授業を今後も継続して学校全体の取り組みとしたい。
	(2) 基礎・基本の定着を図るため、少人数指導・複数担当授業など指導の工夫改善に努める。 個に応じた学習指導の徹底を図るため、生徒の達成状況を的確に把握し指導と評価の一体化を図るよう努める。また一人ひとりの進路実現を目指した指導に努める。	多様な生徒の存在と進路に関する要望を実現するために、評価に関する教務内規の見直しを行った。 今年度も検定前特別授業を行い合格率向上に貢献した。就職や進学に必要な数学Aを選択から必須に教育課程を見直した効果を実証したい。	A	今後も要支援の生徒や配慮を要する生徒に対し、キメの細かい指導を考えていく必要がある。 希望者が少ない講座が開講できず、選択の組み合わせ等を考える必要がある。	現在一部の教科で授業評価アンケートを実施している、学校全体の取り組みとしたい。 選択科目の精選や組み合わせを今後も課題として取り上げていく。 学年に夏休み中の三者面談から、選択科目の説明と希望について指導をお願いしたい。
	(3) 新学習指導要領の改訂のポイントを教員が理解する。	新しい学習指導要領の解説が示されたので、説明会等の報告を行った。 また、来年度から先行実施される教科と内容について理解を求めた。	B	学習指導要領が来年度から各教科に説明会が行われるので教科会議を行い全員が理解する必要がある。	移行措置や先行実施など理解してもらい、教科に反映していきたい。評価の観点が変わることや、総合的な学習の時間が総合的な探究の時間に代わることへの理解を進めたい。
生徒指導	(1) 自転車通学生が大部分である現状を踏まえ、交通マナーの向上と交通安全の高揚を図る。	年間3回の交通安全運動、自転車運転マナー指導(1年)、交通安全講習会を実施した。	B	1年生1学期の交通事故が多い。	飾磨警察交通課と連携を図り、新入生対象の交通安全教室を行う。
	(2) 生徒指導上のルールの見直しを図る。	服装等のルールを見直した。	A	校則の変更について生徒の意見を聞く。	生徒会を中心に生徒の意見を反映させる。
	(3) 校医・家庭と連携して、生徒が主体的に自身の健康の保持増進に努める習慣を養う。	学校医による各種検診を実施し、生徒に自身の健康状態を把握させた。保健だよりを発行し、健康への意識向上を図った。	A	自身の健康に対してより知るための情報を提供し、考えるための工夫をする。	保健だよりや保健委員会、さらには講演会を実施し、健康に対する情報提供の機会を増やす。
	(4) キャンパスカウンセラーを中心に教育相談活動の充実に努め、教職員を対象とした研修を実施し、カウンセリングマインドの向上を図る。	キャンパスカウンセリングを年間28回実施し、生徒・保護者あわせて延べ52名が利用した。相談内容は不登校、学校生活、友人関係、家族関係、身体・健康などであった。	A	多様な生徒に対応するため、職員研修をより充実させ、個別に対応するための体制づくりをする必要がある。	キャンパスカウンセラーや関係機関との連携を密にし、現状に即した研修の実施・意識向上の機会の提供を行う。

	重点目標	成果	評価	課題	改善策等
職業指導	(1)一人ひとりのキャリア形成と自己実現にむけ、組織的・継続的な職業指導体制の充実を図る。	3学年との会議や日々の打合せを実施し、学年団と密に連携を図った。	A	3学年への対応が主になり、他学年との協議、連携が少なかった。	年間を通じて会議等を開催できる機会を設けたい。
	(2)様々な体験活動を通じて、望ましい職業観や勤労観の育成と進路意識の向上を図る。	地元の事業所、ハローワーク、NPO法人等の外部人材を活用し、様々な体験的学習の機会を設けた。	A	インターンシップでの就業できる事業所数が少なかった。	姫路経営者協会等と連携し、インターンシップでの新規事業所を開拓したい。
	(3)主体的な進路選択能力の育成を図るために各学年と連携を深め適切なサポートを行う。	3学年では、「卒業生を囲む会」や「ビジネスマナー講座」など11回の就職ガイダンスを実施した。2学年では、「インターンシップ」や「企業見学」等を実施した。1学年では、将来の進路選択について意識を高める「進路講話」を実施した。	B	2学年、3学年の進路サポートは定着化しているが、1学年への進路サポートが少なかった。	3年間を見据え、各学年での目的や課題に応じた行事等を考えていきたい。
進学指導	(1)進学指導部と学年が互いに連携を持ち、有機的に機能する組織と体制を確立する。また生徒との関わりを強く持つよう学年に働きかける。	毎週の進学会議を持つことで学年の進路係との連携は図れた。学年の状況も都度知ることができた。	B	学年主任・副主任と情報交換をしたり相談する機会がなく、進学指導部の意図がうまく伝わっていないことがある。	進路指導部（進学指導部・就職指導部）と学年主任との連携を図る会議を随時ひらいていく。
	(2)ホームルーム・進学ガイダンス等を通して、生徒に目的意識を強く持たせ、やる気を起こさせる指導方法を常に追究し、実践する。	夏季学習会やその他の機会を利用したガイダンスは充実したものになった。場所や方法を変えながらより効果的に行うことができた。	A	3学年を通しての計画的な進学HRをすることができていない。	適切な時期に適切なHR・ガイダンスをする必要がある。見直しをしていきたい。
	(3)生徒一人ひとりについて、各種資料を活用し、自己理解を深めさせ、主体的に進路選択・決定ができるよう援助する。	業者が出しているような資料についてはよいと思うものを比較的多く提供することができた。	B	生徒に資料を手渡すだけでなく、精選し、さらにはどのように活用するかにおいて連携を図る機会がもてていない。	資料の精選とそれをどのように活用するかの事前準備を行う機会を設ける。
人権・図書	(1)人権教育映画鑑賞会、人権教育講演会、ロングホームルーム等を活用し、生徒の人権意識を高める。	今年度のテーマである在日コリアンの歴史や差別の実態については理解できたようである。	B	ある程度の知識は身についたが、果たして個人が差別解消のための具体的な実践が行えるかどうか疑問である。	差別解消のための具体的な実践力を養う内容の研究が必要である。
	(2)人権教育推進委員会を年6回行い、各学年・各部署との緊密な連携を図る。	こちらからの提案や要請に対しては、しっかりと応えてくださった。	B	各学年・各部署で発生した差別的な事象や人権的な問題等は、中々こちらには挙がってこないのが現状である。	人権推進委員会で、こちらからの提案・要請ばかりではなく、各学年・各部署で発生した人権問題等を聴く機会を設けていきたい。
	(3)全教職員による人権教育研修会を年2回実施し、教職員の知識の向上と、人権感覚の涵養を行う。	教職員の先生方が熱心に参加していただき、概ね達成できたように思われる。	B	講師料等の関係上、2年続けて人権図書部の職員が研修会の講師を務めたが、これは持続不可能である。	講師ばかりに頼るのではなく、以前のように映画やビデオ等の活用もしていきたい。
図書	(1)図書委員会を毎月実施し、生徒の図書館の活用を促進する。	図書委員の自覚をもたせ自分の役割を認識させることができた。	B	図書館の利用や読書推進に向けた積極的な姿勢がほしい。	図書委員の任期を1年にすること。
	(2)PTAの図書購入についての選定は、図書委員に責任を持たせて実施する。	公平な基準を決めて選定をすることができ、図書委員会で報告することができた。	B	生徒の希望がライトノベルに偏る傾向がある。	図書委員が広い視野で図書希望が出てくるようくふうをする。
	(3)『図書館便り』を毎月発行することにより、生徒に読書に対する興味を持たせる。	担当者の読書に対する興味をもとに推薦図書を紹介することができた。	B	本の紹介だけで終わってしまっていることが多い	他校の資料などを参考にする。

	重点目標	成果	評価	課題	改善策等
商業	(1) 個々のニーズや時代の流れに合わせた、商業教育を確立する。	新商品の開発やビジネス教育講演会の実施、課題研究発表会に外部より講評者を招くなど、外部との連携を積極的に行った。	A	生徒自ら発信し、企業と連携できるような仕組みを検討する必要がある。	課題研究の実施内容・方法を検討する必要がある。
	(2) ビジネス教育について質の高い指導方法を確立する。	ひょうごの達人招聘事業、特別非常勤講師の活用した。各種研修会への参加を呼びかけた。	B	特別非常勤講師の講義をできるだけ多くの生徒が受講できるよう検討する必要がある。各種の研修会への参加を呼びかけだが、なかなか積極的な参加はなかった。	外部講師のより効果的な活用方法の検討を行う。各種研修会へ参加しやすい環境作りを含め、引き続き参加の呼びかけを行う。
	(3) 検定資格を計画的に取得させ、知識や技術を修得させた上、実学を経験させることにより、いきいきとした学習活動を確立する。	検定取得のための検定前特別授業を行い、多くの取得があった。ひょうご産業教育フェアへの参加や2日間の販売実習を行った。	B	受験する検定を精選する必要がある。また、検定を受験しない者の特別時間割での、学習内容の検討が必要である。販売実習の内容を検討する必要がある。	受験する検定を精選し、より計画的に取得させる。より効果的な特別時間割の活用方法の検討を行う。実施時期・参加生徒・内容等、販売実習について、再検討の必要がある。
情報科学	(1) 情報技術・工業科目の理解	座学・実習・企業見学を活用して興味関心を持つ工夫を凝らしている。基礎・基本は理解しているように思う。	A	情報技術の興味関心や技術の進歩を企業見学を含め、どう伝えていくかを考えていく。	情報社会を生き抜くために必要不可欠な学習であることを粘り強く伝える。
	(2) 各種情報処理技術者試験・資格取得	年度の終わりに受験している傾向がある。合格者数は例年並みであった。	B	国家資格が必要であると感じた生徒の数しか合格しない。魅力をどう伝えるか。	動機付けを丁寧に行う。
	(3) 実習科目を通してコンピュータ利用技術の向上	様々な使い方を実践できている。	A	機器更新に伴いソフトウェアの5年間のバージョンアップに対するスキルアップが必要。	最先端の情報機器を活用した授業展開を考える。

	重点目標	成果	評価	課題	改善策等
1 学 年	(1) 積極的によりよい人間関係をつくる。 主体的・積極的な挨拶、部活動、委員会活動等の参加	学校内では、主体的に友人、先生、来校される方に対し、積極的に挨拶ができるようになった。部活動や委員会、生徒会への参加も頑張っている。	A	学校外において、主体的に挨拶ができるようにしていくことが課題である。また、部活動を辞める生徒が少しずつ増えている点が課題である。	学校行事等、学校外に出ていく際に、しっかり挨拶や主体的に参加できるように指導していきたい。また、部活動の退部する生徒に対して、辞めるまでに、辞めた後、他の部活に入部することや、これから何を学校で頑張っていくのか等、担任や学年の先生から話をしていくことを心掛けたい。
	(2) 基本的な生活習慣・学習習慣の確立 規則・規律の遵守	基本的な生活習慣として、ルール約束を守るといふ点では、提出物や期日、時間を守ることが意識してできるようになった。	B	遅刻は少ないが、欠席が少しずつ増えている点が課題である。また、学習習慣の確立がなかなかできていない現状に課題がある。	日頃からの生活習慣で不必要に携帯に依存している点が多くあることから、継続して携帯指導、マナー指導をおこないたい。また、日ごろの授業や補修等の取り組みの中で、生徒個々の学習の悩みを把握したい。
	(3) 自己理解を深め、明確な進路目標をもつ 進路指導・選択教科についての懇談	2年生より選択科目があることから、保護者に対する説明会、生徒に対する説明会を行い、三者面談において担任と相談し決定することができた。進路講演会や夏季学習会をおこなった。	B	生徒個々に対する進路意識を持たせる点について不足している。	生徒自身が自らの将来を考えられるように、職業面からどんな仕事が自分に向いているのか、また、その仕事つくためには、高校で何をしなければいけないかなど、大学、短大、仕事の話の話を聞いたり、現場を見学させたりすることで個々の進路意識を高めたい。
	(4) こころの相談・カウンセリングの紹介	数名の生徒が長欠ぎみになったが、復活して登校に至った生徒もいた。保護者の利用もあった。	A	長期休暇明けに欠席者が多くなる生徒が多かった。	長期休暇の間に、学校に来る目的を持たせる必要があると考える。宿題を学校でさせたり、部活動を頑張る等、長欠に至るまでにできる指導を心掛けたい。
	(5) 家庭や地域社会との連携・家庭訪問等	必要な家庭に担任、学年担当で家庭訪問ができた。学年通信を発行し、行事や検定、課題範囲などを生徒、保護者に連絡することができた。また、学科によっては企業見学会の形で企業と情報交換ができた。	B	地域社会との連携をとる機会が少ない。	愛城会の清掃活動をとおした地域連携はあるが、これ以外に時間が取れていない。学校行事や進路行事を通して学校に地域の方を招いて講演等を実施することを検討したい。
2 学 年	(1) 基礎学力の定着と学習指導	考査勉強・課題提出・検定勉強など日頃から学年集会・ホームルームを通し指導している。昨年度より成績優良者が増えている。	B	若干名ではあるが、課題提出が遅れたり、成績不振が続いている生徒がいる。	進路に関心興味を持たせ、継続した学習の必要性を理解させていく。
	(2) 集団の規律を重んじ、学校行事に積極的に参加	学年全体としては守れている。	B	若干の生徒指導を行った。	学年集会・ホームルームで日々継続した指導を行う。
	(3) 基本的な生活習慣の確立	日々のホームルームや学年集会などを通して、注意喚起している。	B	夜遅くまでケータイ使用しており、自己管理ができない生徒が多いように思う。	該当する生徒については、懇談時に生活面も見直すように注意喚起している。
	(4) 進路指導と指導助言	2学期後半より、進路について考える機会をホームルーム・学年集会・保護者会を通して指導継続中である。	A	進学受験校によっては、個人データをデジタルデータ化する必要があるため、入力に関する生徒・職員が慣れる必要がある。	3学期の中で各クラスに時間を設けて取り組みたい。
	(5) 家庭や地域との連携	必要に応じた家庭訪問は出来ている。産業教育フェアへの参加・企業見学の実施を通して連携を深めた。	B	家庭への連絡・連携はとれていると思うが緊急時（交通機関の停止など）に伴う場合の対応を考える必要あり。	交通機関の利用ができなかった際の家庭への連絡手段を学年で対応した。
3 学 年	(1) 自ら学び、自ら考える態度を身につけ、社会に通用する人材育成	進路希望実現に向けて、資格取得・各種補習・面接練習を通じ、個々の課題を明確にし解決に向けた指導をした。	A	上級資格の取得が難しい生徒の指導。	各自、挑戦できる級で受験した。
	(2) 集団の規律を重んじ、社会性、協調性を身につける	企業見学や就職フェアに参加、卒業生を囲む会やマナー講習会等に参加し、社会人としてのマナーを身につけた。体育大会・文化祭を通してクラスの団結力を高めた。	B	若干生徒指導を行った。	学年集会やホームルーム時に根気強く注意指導した。
	(3) 基本的な生活習慣の確立と安全教育	自ら積極的に挨拶をする、時間を守り、遅刻・欠席をしない、等の指導を実施。また、校門遅刻指導も実施した。交通安全指導や不審者情報等を生徒に伝え、注意指導した。	B	進路決定後、気が緩む生徒への指導。	内定者指導、指定校決定者指導、進学補習を実施し、学校の代表としての自覚を促す。安全教育があり、交通事故は少なくなった。
	(4) 主体的な進路選択と指導助言	進学・就職ガイダンスや説明会に参加し、個人面談や三者懇談を繰り返し、生徒の希望にあった進路指導を心掛けた。	A	進路説明会への保護者の参加人数。進学、就職のどちらか迷っている生徒の指導。	進路説明会への参加の呼びかけ時期を早くしたり、休日に実施し、参加者数増加に努めた。
	(5) 家庭や地域との連携	産業教育フェアやチャレンジショップに参加し、地域の企業や地域の人々と触れ合い社会性を身につけた。三者懇談や家庭連絡を密に行った。	A	家庭との連携は進路決定もあり密に行えたが、緊急時の連絡等については課題がある。	三者懇談や家庭との連絡を丁寧に行う。

【学校評議員より】

- ・商業科と情報科学科さらに普通科との違いをどうPRしていくか。
 - ・進学実績についても国公立の進学者数が激減しており、進路について今後どうPRするのか。
 - ・進路指導に対して、高校3年になってからでは間に合わないので、高校に入学したときから進路計画を立案させる必要がある。
 - ・進学状況から見ると普通科と同じであり、商業高校としての3年間の学びが大学につながっていない可能性が十分に考えられる。
 - ・戦略的に高校からどのような大学・学部に進学させるのかビジョンをある程度明確に持つべきではないか。
 - ・大学進学後の追跡調査を行い、活躍している生徒を高校に戻し、話しをさせれば聞いた生徒は一気にモチベーションが上がる。
 - ・高校での3年間の学びが大学での4年間でどう成長するのかまで見越し、さらにその先にどういうキャリアがあるのか長い目の教育を考える必要がある。
 - ・進学率をアップさせるには、卒業生からの話しを3年の6月に聞くのは遅い。1・2年生の段階でも何回かに分けて実施する方がいいのではないか。
 - ・中学訪問等一つの事業を行うに当たっては、考える力にも繋がるので、生徒会等生徒に考える機会を与えてもいいのではないか。
 - ・一つの行事に対して、なぜそれを行うのか、どういう意味があるのか、結果どうなるのかを生徒に問いかけを少しするだけで、一気にその行事が変わっていくのではないか。
 - ・今は情報化社会であり、情報科学科がある本校であるのでスマートフォンを禁止にせず、逆にこれを活用して授業を行う等を行うべきではないか。
 - ・子供たちを社会に出していくことを、小学校、中学校、高校をかけて考えていく必要があり、18歳成人の段階でうまく離陸できるようにすべきである。
-
- ・教職員アンケートに対して、参考程度でも記述があってもいいのではないか。
 - ・PTAが主導となって保護者向けの講演会等を行ってもいいのではないか。
 - ・アンケート項目について、あまり多くのことをやり過ぎると何が大事なのかわからなくなる。もっとシンプルでいいのではないか。ポイントを絞って、記述させるところは記述させる。
 - ・PDCAに対しては、40代以上の先生には自由度を入れ、個人パフォーマンスを発揮してもらった方がいい場合があり、20代の先生は管理職が管理できる仕組みがいいのではないか。
 - ・教科指導力の向上ということで、他の教科との勉強会を行ってみてはどうか。
 - ・部活動と資格取得の調整について、部の顧問と補習等、全体のコミュニケーションを図って、大会前、検定前の優先順位を調整できるように工夫して欲しい。
 - ・組織の活性化に対して、自由度を持った、小さな勉強会から進めていってはどうか。
 - ・ホームページを毎日更新し、地域の方や中学校の先生が、毎日、姫商は何かをやっているということを発信してはどうか。
 - ・大学や地元企業と連携協定してはどうか。
 - ・学校である以上本来学校がやるべきことに重点を置き、親の責任やその領域にあるものは親に返すことをして欲しい。
 - ・成人に達する高校3年生に向かった教育もして欲しい。
 - ・入試制度が変わり、今後は「書く」ということが重要になってくる。教える側も書くことを意識して教える必要がある。

平成30年度学校評価 教職員アンケート集計結果

[内部評価 対象：教職員]

[51名]

No	質問内容	<input type="checkbox"/> よくできている <input type="checkbox"/> できている <input type="checkbox"/> あまりできていない <input type="checkbox"/> できていない	平均値
1	教科指導力向上のための取り組みを行うことができていますか。	9 37 5	3.1
2	生徒指導力向上のための取り組みを行うことができていますか。	7 36 3	3.0
3	生徒の学力を伸ばし、進路実現に向けた指導ができていますか。	6 36 3	2.9
4	生徒の3年間を見据えた指導を行っていますか。	6 36 7 2	2.9
5	進路情報を十分に理解し、生徒の進路指導に当たることができていますか。	8 24 14 5	2.7
6	授業力向上に向けて、アンケート等の方法により生徒からの授業評価を取っていますか。	5 14 20 19 2	2.2
7	授業見学、公開授業などの実施などを通して、自身の授業力向上に努めていますか。	7 22 20 9 2	2.7
8	部活動に熱心に関わっていますか。	13 26 9 5	3.0
9	生活綱領にある目指すべき生徒像を意識した教育を行うことができていますか。	9 27 15 9	2.9
10	「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善を行っていますか。	11 28 11 9	3.0
11	生徒の考える力を引き出すことを意識した授業を行っていますか。	6 36 3 9	2.9
12	コミュニケーション能力の向上を図ることを意識した授業を行っていますか。	7 31 11 9 2	2.8
13	授業準備を十分に授業に臨んでいますか。	15 31 5 9	3.2
14	課題提出ができていない生徒などに対する指導を十分に行っていますか。	17 30 9	3.3
15	生徒との接渉を積極的にかかわっていますか。	33 18	3.6
16	個人情報の管理・漏洩には十分に気を付けていますか。	27 24	3.5
17	毎日の清掃監督をきちんとしていますか。	26 23 1	3.5
18	ワークライフバランスを意識した生活ができていますか。	6 21 19 5	2.5
19	教員の教科指導力を向上させる体制が構築できていると思いますか。	1 20 28 29 2	2.4
20	生徒の学力を伸ばし、希望進路を実現できていると思いますか。	2 39 10	2.8
21	生徒のキャリア形成を支援するためのキャリア教育推進体制が構築されていると思いますか。	4 33 12 9 2	2.8
22	生徒や保護者に適切な進路（進学・就職）情報が提供できていると思いますか。	4 35 9 3	2.8
23	授業、部活動、資格取得の三位一体の指導ができていると思いますか。	3 23 17 8	2.4
24	部活動と補習（検定補習含む）が調整され、効果的に実施されていると思いますか。	1 20 21 9	2.3
25	教育活動全体を通して、生命を尊重する心、他者を思いやる心、感謝の心を備えた生徒を育成できていると思いますか。	2 35 11 9	2.7
26	生活綱領にある目指すべき生徒像に向けての取り組みができていますか。	2 33 15 1	2.7
27	考える力の育成ができていますか。	21 26 4	2.3
28	コミュニケーション力の育成ができていますか。	1 30 16 4	2.5
29	学校評議員による学校評価を踏まえた学校経営ができていますか。	3 32 15 1	2.7
30	保護者や地域、地元企業等と連携を図りながら、魅力ある学校づくりができていますか。	3 32 15 1	2.7
31	商品開発や販売実習は、本校の特徴的な取り組みの一つになっていると思いますか。	10 34 5 2	3.0
32	卒業生や民間人、有識者などを活用した取組を通して、生徒が社会を感じることができる機会が十分設定されていると思いますか。	6 32 12 1	2.8
33	本校の生徒はマナーやルールをよく守っていると思いますか。	8 32 16 1	2.9
34	保護者との緊急連絡体制が確立されていると思いますか。	4 35 9 9	2.8
35	学校生活に必要な情報を学年通信やホームページ等を通して発信していると思いますか。	32 15 4	2.5
36	生徒は資格取得に熱心に取り組んでいると思いますか。	11 35 5	3.1

※ 平均値は「よくできている」を4点、「できている」を3点、「あまりできていない」を2点、「できていない」を1点とした平均の値となっています。